

授業科目名	保育実習 I a	教員名	田川 一希 山下 愛実	免許・資格との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
					保育士	必修
					こども音楽療育士	
授業形態	演習	担当形態	複数	卒業要件	中高英語コース	
科目番号	JIS202	配当年次	2年後期		小幼コース	選択
単位数	2単位				幼保コース	必修
科目	実習に関する科目					
各科目に含める必要事項						
科目	告示別表第1による教科目					
系列	保育実習					
一般目標	<p>保育の現場において学内で学んだ保育の知識や技術を生かして、子どもと直接関わる中で、子ども理解や実習施設への理解を深め、保育の実際を体験的に学習する。保育に参加し、実習する保育所の保育の目標、保育所の一日の流れや乳幼児の発達過程を理解する。そして、養護と教育が一体となって展開される保育内容や、保育の計画や方法、観察・記録等について具体的に学ぶ。また、専門職としての保育士の役割と職業倫理について理解する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、学科のディプロマポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている」「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。</p>					
授業の概要	<p>2年後期終了後、学外の保育所に通い、約2週間実習を行う。実習内容は観察・参加実習とする。保育現場で子どもや保育士の姿に触れ、観察やかかわりを通して保育所で行われている保育のいとなみを学ぶ。また、<b>アクティブラーニング</b>として、実習に臨むにあたっての自己課題に基づき、自ら問いをもって意識的に実習に取り組むことに加え、実習記録を作成し、保育者との対話を通して、自身の子どもへの関わり方や保育者の援助の見方・考え方を捉える力を養い、主体的に学びを深める。</p>					
履修条件・注意事項	<p>保育実習 I a を実施するためには、実習実施条件（成績状況等）を満たさなければならない。</p>					
授業計画	<p>主に、観察・参加実習とする。約2週間の実習を通して、下記の事柄について学び、習得していく。</p> <p>観察実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習する保育所の概要や保育の目標を知る。</li> <li>・保育に参加し、一日の流れを理解する。</li> <li>・子どもの観察や関わりを通して、乳幼児の遊びや生活の実態、発達を理解する。</li> <li>・保育計画に基づく指導計画の在り方を学ぶ。</li> </ul> <p>参加実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術や援助の在り方を学ぶ。</li> <li>・園内における職員の役割分担や保育士のチームワークについて、体験的に理解する。</li> <li>・家庭や地域社会との連携や関わり方を理解する。</li> <li>・環境整備の大切さを実際の体験を通して学ぶ。</li> <li>・実習日誌の作成を通して、記録の意義やその取り方を身に付ける。</li> </ul>					

学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設による評価を100%とする。</li> <li>・60%以上を合格とする。</li> </ul>
時間外の学習について	毎日の実習の振り返りを実習日誌に記述し、実習施設に提出する。また、実習施設より課された課題を期日までに仕上げる。
教材にかかわる情報	参考書：『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 フレーベル館 参考資料等：授業での配布資料
担当者からのメッセージ	実習先との報告・連絡・相談を欠かさず、自分の判断で動くことのないようにすること。判断が難しい場合は、必ず実習園の実習担当、または養成校の実習担当に相談すること。責任感をもって行動してほしい。
オフィスアワー	田川一希：講義時間以外の空きコマ（必ずアポイントメントを取ること） 山下愛実：講義時間以外の空きコマ（必ずアポイントメントを取ること）
備考	